

アルミ輸入は内需の低迷で減少

アルミスクラップの需要は減少傾向に

橋本健一郎氏リポート②

■国際概況

八月前半は、米国が中国からの一部輸入品に対する一〇%の関税発動を延期すると発表したことなどのプラス材料もあったが、米国による中国為替操作国認定を受けて米中貿易戦争激化懸念、中国工業生産の伸びが一七年半ぶりの低水準となり、需要見通しが悪化等を嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、八月十三日時点で一、七四三ドル(セツル)と月初価格から三三・五ドルDOWNの前半締めとなった。

後半はトランプ大統領が中国からの通商協議再開申し入れを明らかにしたこと、中国人民銀行が金利改革を公表し、銅需要の増加期待などのプラス材料もあったが、一日からの米国の対中国制裁関税「第四弾」発動と中国による対抗追加関税やWTO提訴、八月のISM米製造業景気指数が四九・一となり、好況と不況の分岐点とされる五〇割れなどを嫌気しLMEアルミ相場はDOWN、九月五日現在で、後半スタート価格から八ドルDOWNの一、七三四・五ドル。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇九・六四→一〇七・四六(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、六月の自動車生産台数は前年比一・五%減の八十一万八八台であった。

輸出(七月)は四四万五、七一四台で前年

同月比一七・二%増。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四%増の二四万二、七一八台。

◆新設住宅着工件数推移

令和元年七月の住宅着工戸数は七万九、二二三戸で、前年同月比で四・一%減となった。また、季節調整済年率換算値では九一・〇万戸(前月比一・三%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で先月の増加から再びの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家及び分譲住宅は増、貸家は減となった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比六〇・五%減の一五〇t、二次合金が一五・五%増の一、四〇九t、スクラップが一、二三・九%増の一、八、二五七t、アルミ缶が一〇・二%減の五、五八三t。

輸入

輸入は新地金が前年比一二・四%減の一、一万五、八四五t、二次合金が六・五%減の一〇万九、五二一t、スクラップが六六・六%減の五〇八t、合金スクラップは八%減の三、四四五t。

■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・六%増の一、七万五、七六四t。

日本アルミニウム協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・一%減の七万二、四二二tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると六月の自動車生産台数は前年比一・五%減の八十一万八八台であった。

輸出(七月)は四四万五、七一四台で前年同月比一七・二%増。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると八月の自動車販売台数(軽除く)は前年比四%増の二四万二、七一八台。

このうち、乗用車〇・八%増、貨物二、三・四%増、バス三、二・六%増。

【住宅】

令和元年七月の住宅着工戸数は七万九、二二三戸で、前年同月比で四・一%減となった。また、季節調整済年率換算値では九一・〇万戸(前月比一・三%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で先月の増加から再びの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家及び分譲住宅は増、貸家は減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(六面へ続く)

〔四面より続く〕

【アルミ圧延・押出品生産数量】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比〇・六%増の一七万五、七六四tと一九カ月ぶりプラス。

このうち、板類は一〇万七、五九二tで一・四%増と一九カ月ぶりプラス、押出類は六万八、一七二tで〇・六%減と五カ月連続でマイナス。

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】

前年比一・一%減の七万二、四二二tと七カ月連続マイナス。出荷は〇・八%減の七万二、七六八tと二カ月連続マイナス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比六〇・五%減の一五〇t、二次合金が一五・五%増の一四〇九t、スクラップが二二三・九%増の二万八、二五七t、アルミ缶が一〇・二%減の五、五八三t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比一二・四%減の一一万五、八四五t、二次合金が六・五%減の一〇万九、五二一t、スクラップが六六・六%減の五〇八t、合金スクラップが八%減の三、四四五t。

【見通し】

・自動車は生産が一・五%減、国内販売台数が前年比四%増と、生産が再びマイナス。生産はマイナスだが販売はプラス、今後注視。

・日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比〇・六%増の一七万五、七六四tと一九カ月ぶりプラス、今後更にプラスが続くかの動向に注視。

・アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比一・一%減の七万二、四二二tと七カ月連続マイナス。出荷は〇・八%減の七万二、七六八tと二カ月連続マイナス。今後マイナスが続くかの動向に注視。

・アルミ輸出は自動車需要から二次合金スクラップのみ増加、アルミ輸入は内需低迷から全品種減少。

【スクラップ景況予想】

前月に続き流通在庫は販売価格の低迷、生

産減、発生減から少ないのではないかと。需要面に関しては足元の生産状況が徐々に悪化しており減少。

米中貿易戦争から不透明感が強くメーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、香港デモの動向に左右される。

米中貿易に関して、九月に米国との通商協議実施で調整と表明したが条件面で両者が折り合えるとは考えにくくまだまだ悪化するのでは？

香港デモに関しては逃亡犯条例改正案の撤回を認めた中国政府だが、反対派が掲げる「五大要求」のうち、残る四つに習近平指導部が応じる可能性は低い。

これらを踏まえた七月のアルミ価格は一、七〇〇〜一、八〇〇ドル。スクラップ購入価格に関しては〇〜五円安程度と予測している。

LME 非鉄在庫 (9月6日発表分)

	入庫	出庫	9月5日現在	増減
銅	700	6,100	313,275	- 5,400
G A W	0	0	0	± 0
G A C	700	6,100	313,275	- 5,400
すず	0	20	6,950	- 20
鉛	0	50	76,575	- 50
垂鉛 SHG	0	975	65,625	- 975
アルミ	6,575	2,275	923,225	+ 4,300
二次合金	0	40	7,020	- 40
ニッケル	1,182	48	154,956	+ 1,134
アルミ二次 (NASAA)	0	200	76,060	- 200

◇ KLT M ず相場

九日 国王誕生日で 休場

◇ 東工取 (九日前引、限月十月)

金 五、一九〇 円
 銀 六二・八 円
 白金 三、二六三 円
 パラジウム 出来ず